

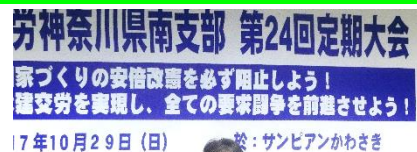


建交労神奈川県南支部第24回定期大会は台風22号が接近する悪天候のなかで大成功

建交労神奈川県南支部は10月29日に“サンピアンかわさき”において第24回定期大会を開催しました。

この日は、台風第21号が接近するなかで開催した前週10月22日の第19回神奈川県本部定期大会と同じように台風第22号が接近する荒れ模様の中での開催となりましたが、代議員・役員ともに大会成立要件を大きく超える出席者を確保して開会しました。

大会は齋藤副委員長が情勢に触れながら大会成功に向けて参加者の協力を呼びかける挨拶を行なって開会。



開会挨拶を行なう齋藤副委員長



主催者挨拶をする佐藤章委員長

出席された川崎労連の長島事務局長から激励・連帯の挨拶を受けました。

長島事務局長は、建交労神奈川県南支部の運動の前進と組織的な発展を期待するとともに、地域の運動に結集することへの期待を表明しました。

来賓挨拶のあとは、全国から寄せられた大会への祝電メッセージから角田季代子建交労中央執行委員長名のメッセージを須田執行委員が読み上げました。

その後、大島書記長が2017年度の運動方針を提案。



来賓の川崎労連・長島事務局長



運動方針を提案する大島書記長

大会議長には齋藤副委員長の提案で内外液輸分会の曾根田代議員を選出して議事を進行しました。

主催者を代表して挨拶をおこなった佐藤委員長は10月22日に実施された総選挙の結果を攻勢的にとらえることの重要性なども指摘しながら情勢を切りひらく強大な神奈川県南支部の建設に向けて全組合員が一丸となって奮闘することなどを強調しました。

佐藤委員長の主催者あいさつにつづき、来賓として

齋藤副委員長が過年度財政報告と新年度財政方針・予算案を提案し休憩後に討論に入り内外液輸、イワサワ、三昭運輸の3分会から発言があり、大島書記長が討論のまとめをおこなって採決に入りました。すべての提案・報告が満場一致で採択され、さらに2名を増員した役員選挙とスト権投票も満票で信任されました。

大会の最後に金崎書記次長による閉会挨拶と佐藤章執行委員長の発声による団結がんばろうを三唱し、大会を成功裏に閉会しました。

大会宣言

建交労神奈川県南支部第24回定期大会は、憲法9条をめぐって国民と改憲勢力の攻防が本格化するなかで開催された。安倍政権は広範な「市民と野党の共闘」に追い詰められ、森友・加計学園疑惑の追及から逃れて9月28日の臨時国会冒頭で憲法違反の国会解散を強行した。10月22日の衆院選は安倍政権を退陣に追い込む好機であったが、民進党が市民連合との約束を破って右翼・排他的思想の小池東京都知事が結成した新党「希望の党」に合流する逆流が生まれ、大政党に有利な小選挙区制や低投票率なども影響して与党が議席の3分の2を確保した。

一方、労働者・国民が支持した平和と立憲主義、安倍政権の退陣を求める野党共闘は38議席から69議席へと躍進している。

労働者・国民のたたかいは、改憲と戦争する国づくりを許すのか、それとも憲法が活かされる政治を実現させるのか、大きな岐路に立っている。

戦争法反対でひろがった国民・市民の運動は、国政の私物化と民意を無視する強権政治を主権者の立場で変える大きなうねりとなっている。

労働組合運動が、一致する要求・課題で共同をひろげ「市民と野党共闘」の流れをさらに大きくひろげるなら、労働者・国民の切実な要求を実現する状況をつくりだすことができる。

「安倍9条改憲NO！憲法を生かす全国統一署名」を職場・地域の隅々にひろげ、大規模な行動を展開するならば改憲を断念させ、安倍政権を退陣に追い込むことは可能だ。

第24回定期大会は、平和と民主主義が戦後最大の危機にあるなかで「失業と貧乏と戦争に反対」する建交労の真価を発揮し、職場・地域で影響力をいっそう高め、要求実現と組織拡大強化の相乗効果をつくりだしていくことを確認した。

私たちは、決定した運動方針と新執行部に団結して“いのち”と“くらし”を守り、格差と貧困社会を許さず、安倍政権の暴走と改憲を阻止し、諸要求実現、組織の拡大・強化にむけて全組合員一丸となって奮闘する。

右、宣言する。

2017年10月29日

第24回建交労神奈川県南支部定期大会



被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、 核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、 すべての国に求めます。



人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ましたが、それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

よびかけ被爆者代表：坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三（以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員）、田中熙巳（日本被団協・事務局長）、郭貴勲（韓国原爆被害者協会・名誉会長）、向井司（北米原爆被害者の会・会長）、森田隆（ブラジル被爆者平和協会・会長）、サーロー・セツコ（カナダ在住）、山下泰昭（メキシコ在住）

私は被爆者の訴えに賛同して署名します

名前	住所	募金

ご記入いただいたお名前や住所など個人情報は、この要請目的以外には使用しません。みなさんの署名は、毎年の国連総会に提出いたします。

【取扱団体】

原水爆禁止日本協議会

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4 ☎03-5842-6031